

## POINT1

### 依存症問題の専門家が登壇

ネット・ゲーム依存問題では、中学校の教諭や研究者・専門家が、薬物依存については第一線で支援や治療にかかわっている専門家が登壇し、依存の実態や対応策を提供。

## POINT2

### 依存症に苦しんできた当事者や家族が登壇

ネット・ゲーム依存や薬物依存の当事者・家族が、自らの苦しんできた体験を語り、回復の一步を踏み出すために周りや社会に何を求めるとかを発信。

## POINT3

### トークセッションで、双方向型の意見交換

会場の声も取り上げ、地域の状況を引き出し、地域の予防教育資源である教育者、保護者、当事者等の情報交換ができ、今後の連携への一助に。

## 取り組み内容

開催地の県・府・市自治体と教育委員会から後援を受け、地元家族会やダルクの協力で直接足を運び、会場近隣の中高校の教諭と生徒(保護者)へのチラシ配布を行うなど、下表のように、33団体200人以上の多くの方の協力を得た。

| 協力内容     | 青森        | 京都           | 千葉        |
|----------|-----------|--------------|-----------|
| 後援団体     | 6団体       | 11団体         | 4団体       |
| 広告等協力団体  | 1社        | 4社           | 2社        |
| チラシ配布依頼先 | 市立19中学校等  | 17中高校、2教員組合等 | 135中高校等   |
| 準備協力団体   | 地元家族会・ダルク | 地元家族会・ダルク    | 地元家族会・ダルク |
| チラシ枚数    | 8000枚     | 8000枚        | 10000枚    |



## 事業のねらいに対する成果

- 所属のわかった参加者 263 名の内 アディクション団体・回復支援施設・当事者家族を除く参加者は 58.%(右図) 青森は 76%を超え、知る機会の少ない人が数多く参加。

### ○ アンケート回答者 190 名

- ・「こういう講演会に参加したことない方」77名(40.5%) 青森では 42名(71.1%)

- ・「大変参考になった」182名(96.8%)、青森は全員(100%)

- ・ 受講前と受講後で、理解が深まったもの

1位:「使用障害や依存症はどういうものか」

「よくわかった」13.8%→50.0% **+36.2%**

「よく」「大体」70.4%→97.8% **+27.4%**

2位:「使用障害や依存症の自助グループについて」

「よくわかった」「大体」62.4%→94.7% **+32.3%**、青森では 30%→91% **+61%**

3・4位:「やめられなくなるのは本人の性格や意思の問題だと思わない」は

ネット・ゲームは 46%→65.1% **+19%**、薬物は 58.9%→76.9% **+18%**

と理解の深まりがあり、「大変勉強になったこのような研修をまた是非お願いしたい」「参加して本当に良かった」「家族の方の話に心打たれた」「養護環境に苦しんでいる児童生徒は少なくない。先生の話は心から納得できた」「孤立を防ぐことの大切さを知ることができた」「データと共に最新情報が知れてよかった」「必要なのは、依存症の相談機関や医療機関。地域社会の理解が必要」「体験談が大変勉強になった」「改めて予防教育の重要性を感じた」等数多くの声。

- トークセッションでは、準備の段階での協力者も加え、会場と双方向型の意見交換が行われ、地域の予防教育資源である教育者、保護者、当事者、支援者等の情報交換ができ、今後の連携への一助となった。

- HPに多くのアクセスがあり、動画「ADDICTION」は15万回再生し予防教育資源の拡散になる。

## 課題と今後の展望

本事業の実施結果から、依存症問題について学ぶ機会の少ない地域での教室実施の大切さを実感。

今後やっかれんとして、普及啓発が進んでいない地域をより重点に、特に教育関係者(養護教員・スクールカウンセラー等)と保護者を重視して取り組んでいきたい。そして実施に当たっては、啓蒙と対策を全部行うのは無理があるので、啓蒙に重点を置きながら、個々の不安や問題を抱えた参加者に対しては、事前に地域やネットの情報を収集し、問い合わせ先(相談窓口)等信頼できる情報を伝えていくことや、今後の相談できる場としてやっかれんがコーディネートできる努力をしていくことが必要。

